

妙高 神奈山

2016年1月17日(日) 晴れのち曇り

メンバー：池田T(リーダー)、ヤマメ、杉浦

休暇村妙高から出発。駐車場から東側の林道に降りるとスキーのトレースがあった。前日に入山したパーティーがあったようだ。幕ノ沢を渡って150mぐらい進むと山の斜面に取り付いた形跡があった。先人は沢状地形を登っていったようだが、登り易そうには思えなかったため、我々は尾根状を登って行った。それでも出だしの傾斜は急で楽では無かった。



除雪されていない林道



標高870m付近。ヤブがうるさい。

藤巻山のピークははっきりしない。三角点があるようだが雪に埋もれているのであろう。神奈山の西尾根に入っていく。傾斜はキツくないのでジグザグに折り返すこともなく、シールだけで直登できる。標高1000mあたりからヤブは無くなり、すっきりしたブナの純林になる。期待通りの状況だ。



ブナの疎林帯を登っていく

標高1400mあたりまで登るとブナの疎林帯が終わって再びヤブ気味になってきた。
また、ガスが出てきて視界が悪くなってきたので引き返すことにした。

シールを外して滑降開始。パウダーとは言えない少々重めの雪だったが、滑りに支障は無い。
ブナ林のツリーランを大いに楽しんだ。



歓声を上げて滑るヤマメ



疾走する杉浦

楽しい滑走が終わり、藤巻山手前の平坦地に出た。沢状地形を降りていく別パーティーのトレースがあったので、我々もそちらに行くことにした。

我々が登って来たところは途中が平坦な上にヤブがうるさかったので、沢を下ったほうが早いと考えたのだ。

これが大失敗。良かったのは最初だけで、やがて滑るのが困難な狭くて急な地形になった。

先人のトレースはいつの間にか無くなり、沢には水流が現れ、しかも木々が行く手を遮る。

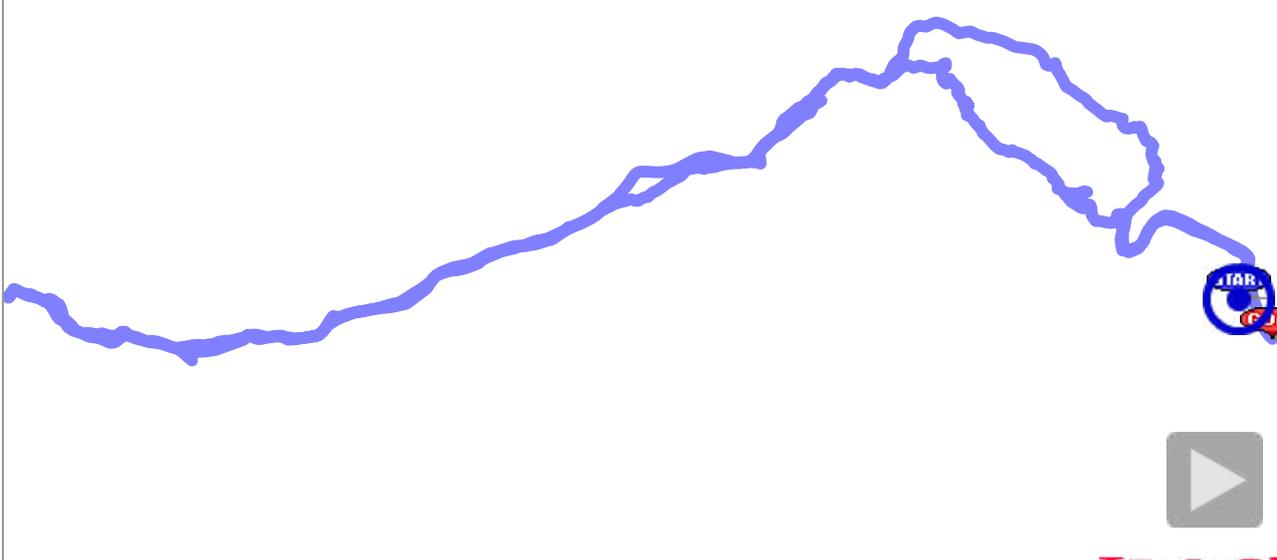
早く降りるどころか、かえって遅くなってしまった。

何とか林道に出た時は本当にホッとした。

安全に滑れる確信が無い沢状地形には入ってはならない。たとえ先人のトレースがあったとしても。当たり前のことだが、忘れてはならない教訓となった。

<タイム> 休暇村妙高8:55 – 藤巻山10:40 – 標高1400m付近12:45～13:10 – 休暇村妙高16:30

以上 (池田T記)



YAHOO!
JAPAN

(C)Yahoo Japan,(C)ZENRIN

1500 m

標高:794m

0 m